ユーザーの声

両利きバイポーラピンセットとそのショートタイプについて

レーザー装置導入時にオプション設定であった片利きバイポーラピンセットを長らく使用していたが2013年にビームスプリッター装置と両利きバイポーラピンセットが発売されたのを機に導入し使用を始めたが使い勝手は別物の様でそれ以降、片利きの方はお蔵入りになってしまった。片利きタイプのものでも血管のシール切断等では問題なかったが管腔臓器(子宮等)のシール切断はほぼ無理で結紮せざるを得なかったが両利きタイプになってからは多少の工夫は必要ではあるがほぼ結紮なしで切断可能となった、それによってウサギ、チンチラ、ハリネズミ等の子宮卵巣全摘出術では卵巣動静脈、間膜、子宮体を全て両利きバイポーラピンセットを使用することで切断可能となり結紮することはほぼなくなった(たまにシールが上手くいかない場合は子宮体のみ結紮することはあるが)。これは非常に有効でハリネズミくらいの大きさの動物で卵巣動静脈を結紮するのは術野の狭さから困難なこともあるが両利きバイポーラピンセットを使用すれば容易に処置が可能である。先ほど多少の工夫と述べたが管腔臓器のシール切断に於いてはまず切断部位に鉗子をかけて挫滅するほど強く鉗圧をかけるとその部位の組織の血液、水分が移動しシールしやすくなる。その後その部位を両利きバイポーラピンセットを使用して切断するのだがその時も強く挟み込みながら切断していくことがポイントとなる。この強く挟み込みながらの処置に於いてピンセットの先端がずれて手間取る事も多々あったので短いタイプの製作は出来ないかと飛鳥メディカルには要望し続けていたところ最近やっと完成したとの報告を受け早速導入した、短くなって取り回しが楽になったことと先端に強い力をかけやすくなったことによりシール切断も容易になった。ショートタイプの導入によって従来の両利きバイポーラピンセットが今度はお蔵入りになるところであったが有償にてショートタイプに変更して頂くことも出来、現在では 2 本体制でスペアを用意してオペに臨むことが可能となりストレスなくオペすることができています。

岡山県獣医師会理事
日本獣医エキゾチック動物学会理事
ナカムラペットクリニック

中村　金一　先生